

日本キリスト改革派教会 教会憲法入門講座

第6章：『礼拝指針』について

第3章 公的礼拝の要素 1、4節

2. 礼拝の本質－「聞く」ことと「従う」こと（続き）

c. 真理の霊によるキリストの臨在（続き）

聖書の御言葉と聖餐とは、どちらも信仰の目をもって聴きまた見なければ、そこにキリストの臨在を仰ぐことはできません。聖書の言葉を何万編も聴き、またどれほど学びを積み上げても、それで神を知り、キリストに出会うことはできません。信仰のない人には、聖書の言葉も、聖餐も全く無意味なのです。聖霊がその心を開き、その意味を悟らせてくださらなければ、キリストへの信仰に至ることはできません。聖霊だけが、わたしたちにキリストを知らしめる真理の霊なのです（ヨハネ14章26節、15章26節、16章8、13節）。そして、御言葉に聖霊が共に働いてくださることで、初めてわたしたちは聖書の真の意味に至ることができるのです。そして主イエスは、真の礼拝は、「霊と真理をもって」なされるべきことを教えられました（ヨハネ4章24節）。ここでいう「真理」とは、単なる一般的な真理のことではなくて聖霊のことであり、「霊」も聖霊ですから、ここで言われていることは、真の礼拝は聖霊によって成り立つということです。わたしたちの全身全霊をもって、人間の側のあり方のように誤解されませんが、そもそもそのようにわたしたちが全身全霊をもって神を礼拝できることには、聖霊の助けと働きがあるのです。

d. 聖書によって「キリストの真理」に至らせる聖霊の働き

「真理の霊」なる聖霊は、わたしたちに神の真理を啓示されるために働いておられました。人間の歴史の中に介在し、それを導いてこられた聖霊は、とりわけ墮落した人間が、神を知り、救いに至る信仰を持つために、歴史を通じて神の救いの御業を果たすと共に、それによって特別啓示を現わしてこられたのでした。このようにして歴史を通じて現わされた神の特別啓示は、やがてまとめられ文書化されました。それが聖書ですが、聖霊はそこに至るまでの道筋の全てを導かれ、誤りなく神の言葉が記録され、保存されるために働いてくださったのでした。聖霊は、さらにその福音が私たちへと提供されるようにも働かれ、そこで聖霊は、単に外的に働かれるだけではなく、内的にも働いて、福音が心にしっかりと受け入れられていくための働き（内的照明）もしてくださるのでした。外的で客観的な啓示だけでは、罪に墮落し霊的に盲目となってしまった人間には不十分でした。それはこの啓示が不十分だというのではなく、啓示を受領する人間の能力が十分に機能しなくなってしまったためでした。そこで神は、人間が神の啓示を受領して救いに至るように、それを受領できるようにも働きかけてくださるのです。客観的に提示された啓示を、主観的に受け止められるように、内的に働きかけて、霊的に目を開かせ、啓示が見えるようにしてくださるのです。この霊的に盲目となった人間の霊的開眼をさせ、啓示に対して全く暗くなった「心を照らしだす」働き、聖霊の「内的照明」といいます。それによって罪で見えなくされてしまった人間は、神の客観的に提供された啓示を受け止めることができるようになったのでした。